

8342/52

日语学习

商 群 编

7

RIYU XUEXI

库存书

商务印书馆

日 语 学 习

第七辑

商 群 编

商 务 印 书 馆 出 版

(北京王府井大街 36 号)

新华书店北京发行所发行

六 〇 三 厂 印 刷

统一书号: 9017 · 1115

1931 年 10 月第 1 版

开本 787 × 1092 1/32

1931 年 10 月 第 1 次印刷 字数 143 千

印数 1—32,000 册

印张 5

定价: 0.43 元

目 录

日语中谓语附加成分与汉译(续).....	刘振瀛 (1)
形容词ない和助动词ない的区别.....	茹顺正·王铁桥 (12)
谈谈怎样学习惯用型.....	张衍祺 (17)
形容词形态演变简介.....	尹学义 (30)

敬语论丛

日语的敬语.....	陈翠池 (34)
日本战后敬语使用上的动向浅谈.....	丘仕俊 (42)
敬语使用中常见的错误.....	刘金才 (48)
日语复合动词例解(续).....	赵福全 (55)

词语辨析

ごろ和ぐらい.....	刘卫民 (66)
きる、はく和まとう.....	王新潮 (68)
“大きい”与“小さい”.....	杨维乔 (69)
“貸す”与“借りる”.....	(71)
“坏了”与“碎了”.....	(73)
“声”与“音”.....	(75)

学译《蟹工船》散记(续).....	李思敬 (77)
谈谈まま的译法.....	宋其昌 (86)
连动式的几种日译法.....	秦礼军 (88)
谈谈“要”的翻译.....	高 昕 (91)
谈谈ほか的用法.....	林孝彰 (94)

译文短评

“大勢”是修饰谁的?.....	冬 波 (98)
日语アクセント的基本常识.....	肖 强 (99)
接头词“御”构成的派生词的音调.....	曾 杰 (104)

日语杂谈

- 敬语拾零……………仕 俊 (109)
日语中的外来语……………许学龙 (110)
谈“峠”……………赵 玉 (114)
“左”和“右”……………晓 舟 (115)

作者·编者·读者

- 关于の的特殊用法……………学 仪 (116)
判断助动词だ的连体形の与领格助词の……………沈德余 (118)
分析格助词の的一个特殊用法……………史文享 (121)

汉字读音积微

- 你能读多少“当用汉字”? ……………三 思 (126)
这些人名你会读吗? ……………刘 涛 (127)

日本之窗

- 略谈日本的“省”……………陈洪滨 编译 (129)
祭针节……………何培忠 (131)

文学常识

- 《古事記》……………文洁若 (132)

作家与作品

- 平凡……………卞立强·孙宗光 译注 (133)

译注读物

- 中国の数字……………翼武 译注 (154)

小资料

- 你知道他是谁吗? ……………周 祺 (134)

日语中谓语附加 成分与汉译

(续)

(六) 用か引出的谓语附加成分

日语中有一组谓语附加成分,是在谓语中心词下首先出现か,か的后面再出现其他词语,总起来组成一个词组,形成为谓语附加成分。这类用“か”引出的附加成分,由于受有不定意味的かの制约,大都具有疑惑、不定、揣测的语气。

〔かどうか〕

① 果たしてこう ^{かんが} 考えていいかどうか。

〔究竟是否可以这样认为呢,这很难说。〕

② 日本の税制はどうか。果たして減税が ^{おこな} 行われるかどうか。

〔日本的税制会如何呢,很难说究竟能不能减税。〕

③ 一昨年、中国報道代表団が日本を訪問された際、われわれも
できるだけのお世話をしたつもりだったが、正直のところ、
これだけ行きとどいたお世話ができたかどうか。

〔前年,中国通讯代表团访问日本的时候,我们自以为总算竭尽全力给予照拂了,但是,老实说,(我们那时)很难说(象现在人家这样)做到了这样周到的照拂。〕

以上三例中的谓语附加成分かどうか,表示存疑的语气,直译应为“是否……呢”。但只用直译,并不能表示出它的真实含义。因为它虽然表示“存疑”,但实际是偏重于否定的一种说法,可以将它叫做倾向于否定

的存疑。也就是说它是以一种存疑的形式，来怀疑事实的可能性。这从例③中可以看得很清楚。这句话的真正含义无非是说“现在人家给予我们的照顾，要比过去我们给人家的照顾远为周到”。基于日语中存在的大量含蓄的表现(かどうか就是一种含蓄的说法)，所以在汉译这一附加成分时，不宜采取直译法，因为“是否……呢”这种存疑语气，它的回答，既可能是“是”，也可能是“否”。为了传达出这一附加成分的真实语感，可译为很难说……能不能……，如例②。或只是简化为很难说，如例③。有时也可译为“是否……，这很难说”，如例①。

〔か知れない〕

①それはどんなに彼を驚かしたか知れない

〔那真不知道该怎么使他吃惊哪。〕

②あなたのことを、どんなに心配したか知れない。

〔(我)真是担心你极了。〕

③そうお言いいになる方が言わないでいるよりも、どんなにいいか知れません。

〔您这么说了，要比一直不说，真不知要好多少哪。〕

④そういう誇げな説明を何度聞かされるか知れない。

〔这种自鸣得意的说明，我不知听了多少遍。〕

上述のかしれない是从程度上数量上加重语气的用法，意谓其程度之甚或数量之多。如直译，可译为真不知道、真不知、不知等。这一附加成分，如例②～③所示，往往与副词どんなに相照应，有时可将这个どんなに……か知れない整个意译为加重语气的词，如“どんなにいいか知れない”可译为“太好了”或“好极了”。

〔かも知れない〕

①いつまでもそう思っている人がいるかも知れない。

〔说不定有人总是这么想。〕

②これはすこしむずかしいかも知れませんが、一生懸命にやれば出来ないことはありません。

〔这个或许稍微难一点，不过如果努力做的话，不会不行的。〕

③日本本土での民権運動の後退が彼等を孤立感に追いやったと

いう面^{めん}もあったかも知れない。

〔也许有这样的一面：日本本土民权运动的后退，迫使他们感到孤立。〕

以上三例中的かも知れない与前项のか知れない相较，虽然中间只多了一个“も”，但语义完全不同。如上所述，か知れない用于加重语气；而かも知れない则表示推测或揣测，汉译应为也许、或许、说不定、很可能，有时也可译为也未可知，放在句末。

这里需注意的是，有时かも知れない直接接在名词后边，如：

六千キロの長城^{ちやうじやう}を山河^{さんが}に筑^{きず}く民族^{みんぞく}にとっては，地下壕^{ちかごうほ}掘りなど簡単な事^{かんたん}かも知れない。

〔对于一个在山河大地上建造万里长城的民族说来，挖掘地道，也许是个极其简单的事。〕

上文中的簡単な事，从表面上看，看不出它是谓语，其实它是把简单な事だ中的だ略去了，正象“彼は誰か”这类句子一样，当做为表语的名词与かも知れない相接时，だ要略去（如果将だ换为である则不应略去），因此，仍应将这种情况的かも知れない认定为谓语附加成分。

〔かも分らない〕

①あの部屋^{へや}は，ここより冷える^{ひや}かも知らない。

〔那间屋子也许比这里冷。〕

②もう教室^{きやうしつ}には誰もいないかも知らない。

〔说不定教室里早已没有人了。〕

かも知らない做为表示推测语气的附加成分，是与かも知れない含义相同的。

〔かのような〕

①言うことは理^{こと}にかなっているかのような。

〔所说的好象是合乎道理。〕

②その部屋はきれいに整頓^{せいとん}されており，大きな鏡^{かがみ}のついた紫檀^{したん}の家具^{かぐ}が安定^{あんてい}した生活^{せいかつ}を象徴^{しょうちやう}するかのようなだった。

〔那间屋子整理得很好，镶有大镜子的紫檀家具，似乎是象征着安定的生活。〕

③彼は僕の肩を手でおさえた。どれだけの重みにたえられるか、と試しているかのようだった。

〔他用手按了一下我的肩膀，仿佛是在试验我能挺得住多大份量似的。〕

以上三例中的かのようだ，是表示揣测或疑似之辞，因此它与单纯表示揣测或直喻のようだ不同。如：

理にかなっている { (A) ようだ。/ 大概合乎道理。
(B) かのようだ。/ (表面上) 好象是合乎道理。
…と試している { (A) ようだ。/ 似乎在试……
(B) かのようだ。/ 仿佛在试……似的。

通过以上对比，可以看出：A 组のようだ是一种委婉的断定，说话的人分明认为是如此，但不肯做明确的断定，而使用了含混、委婉的语气。B 组のかのようだ，虽然表面上也属于委婉的断定，但说话的人内心里并不认为会如此。也就是说 B 组のかのようだ，隐含着“表面上好象是合乎道理，而其实并不合乎道理”“表面上仿佛在试……而其实并非如此”的弦外余音。这点，还可从かのようだ用于句中的派生形式かのようにの下述用例，清楚看出它的“表面肯定实质否定”的含义。

井戸であるかのように見えたが，あれは地下道の抜穴だった。

〔看起来好象是口井似的，(其实)那是地道的出入口。〕

②風邪であるかのように見えたが，実は肝臓炎だった。

〔看起来仿佛是感冒似的，其实是肝炎。〕

上两例中的かのように見える，也应属于谓语附加成分。

(七) 用と引用的谓语附加成分

在日语句子中，有一组用と引出的谓语附加成分，这类附加成分，最多见的是在和后边接上形式动词いう(言う)，再接上其他词，构成一个词组。如といわねばならない(ならぬ)、といいていい、といった方

が いい、と言えなくもない等。这类附加成分中的いう(言う),虽然在词组内部,它居于中心词的地位,但它并不能说明主语,它只能以整个词组来修饰、限定谓语中心词,如:

このことは、大いに^{おお}注^{ちゅう}目^{もく}に^{あた}値^じする実験であるといわねばならぬ。

〔这件事,不能不说是一项很值得注意的实验。〕

从上例看,这个句子的主语はこのことは,它的谓语は実験である。这个句子本来到此就可完结,不失其为一个完整的句子,而后边的といわねばならぬ(ならない),是表示说话人对这一论断的态度,即表明说话人认为“从种种迹象(或根据)来看,都必须下此论断”的语气。因此,这类附加成分中的いう(言う),与句子的主语并无直接关系,它只是与其它词语组合成一个词组,来为谓语実験であった添意,起着附加成分的职能。以下出现的几组附加成分,都是根据这一道理来判定其为谓语附加成分的。

〔といわねばならない〕

- ①中国経済貿易展覧会がこんなにも大きな成果をおさめたのは日本の皆さんの中国に対する友好の賜物といわねばなりません。

〔中国经济贸易展览会之所以取得这么大的成果,不能不说是出于日本朋友们的友好之赐。〕

- ②若しこの害物から精神の糧を汲みだすことが出来るとすれば,それはそのような事実だけではなくて,むしろ著者の態度にあると言わねばならぬ。

〔假如从这本书能吸取精神食粮的话,那么必须说那并不单只是(书中所写的)那种事实,而无宁在于作者的态度。〕

- ③日本が帝国主義として飛躍したのが日清戦争賠償金によってであった事実を想起すれば,帝国主義日本はここで論理的・道義的にふたたび中国人民に完敗したといわねばならない。

〔只要(我们)回想起日本做为帝国主义国家飞速发展起来是依靠中日甲午战争赔款这一事实,那么只能说帝国主义日本,在

这里从道理上、道义上彻底输给了中国人民。]

以上三例中的といわねばならない都是表示说话人在下判断时的坚决语气的，所以可译为**不能不说、只能说、必须说**。有时为了行文的需要，也可意译为“肯定是……”“毫无疑问地是……”。

〔といていい・といてもよい〕

- ①このような思想は、まったく封建的な^{しやう}考^{ほう}えからでてきている
と^いっていい

〔这种思想，可以说是完全出于封建的想法。〕

- ②彼の教師生活は順調に進んでいると^いってもよかった。

〔他(那时)的教师生活也可以说是进行得很顺利。〕

- ③彼等が協力して思想的に一致点をみつけだしてゆくという
ことは、非常に困難なことではあるが、貴重な努力である
と^いってもよいだろう。

〔他们互相合作，在思想上不断寻找出共同点，这件事虽然十分困难，但总可以说是一种宝贵的努力吧。〕

- ④現在、子供が二、三人できれば、経済的な餘裕がないかぎり、家
庭は戦場であるといってもいいくらいである。

〔现在，如果生有两、三个孩子，只要经济上不宽裕，家庭几乎可以说就是战场。〕

以上例①～例③是と言っていい及其稍许变体と言ってもいい的用例。这一附加成分，与前项のといわねばならない形成对照。如果说と言わねばならない是表示说话人在进行判断时坚决态度，那么と言っていい则表示说话人在进行判断时的所采取的谦抑的态度，从而采取了不做十分坚定的主张的语气，至于と言ってもいい，由于多了一个も，它语气就更加缓和，更加带有商榷的意味。对于前者，可译为可以说(是)；对于后者，可译为也可以说(是)或译为总可以说或未尝不可说。例4的附加成分是と言ってもいい与くらいだ的双重结合，所以要译为几乎可以说、甚至可以说。

以上的这一组附加成分，还可以换置为汉语式的表现と言ふべきであらう。如：

これはまさしく天皇制下の日本知識層の悲劇というべきであらう。

〔可以说,这正是天皇制下日本知识阶层的悲剧吧。〕

总之,这一组附加成分,它们之间,在语义上、作用上,差别并不太大,只有细微的语感上的差别:

知識層の悲劇(だ) {
といわねばならぬ。(坚决论断的语气)
と言っていい。(较缓和的论断的语气)
と言ってもいい。(带有商榷意味的论断语气)
と言うべきであらう。(汉语式的表现)

☆だ加括弧,表示“悲劇”是谓语,实际上得要省去。

〔といった方がいい〕

- ①人の前で,そういう改まった事を話す事が,何か自分達には晴れがましすぎて,ぴったり来なかった,といった方がよかった。

〔可以说,在人前讲这样一本正经的话,对我们来说,总觉得十分不好意思,不太合适。〕

- ②私は大学にはいったばかりであった。というより,やっと大学まで辿りつくことができたばかりといった方がよかった。

〔我(那时)刚刚上了大学,不,更确切地说,我(那时)是刚刚勉强得以进入了大学。〕

以上两例的と言った方がよい是由という和方がよい组合而成的附加成分。表示说话人在论断某事时,经过一番思考之后得出某种判断的语气,因此,它是一种选择判断。这一附加成分是将“……(した)方がよい”加以定型化的一种表现(可参看《日语学习》第三册第五十二页有关“方がよい”的说明)。汉译这一附加成分时,可译为副词性的短语更确切地说、无宁可以这样说、可以说、应该说等等。

〔と言えなくもない〕

- ①見様によっては,なかなか個性的な魅力の持主であると言えなくもない。

〔从某种角度来看，也未尝不可说，他是个很富于个性魅力的人。〕

- ②彼等が東京と岐阜とで、離れ離れに暮すことは、それだけでも二度と出会う機会を逸してしまったといえなくもないのだ。

〔因为，也未不可以这样说：他们一个在东京，一个在岐阜，分居两地，仅从这点就已经失去了再次相会的会了。〕

以上两例中的といえなくもない，是表示说话人的委婉断定的语气之一。不过它不是用“推测”或“存疑”的语气，而是用“双重否定”的形式，来表示进一步的论断。这种利用双重否定的绕圈子的说法，实际还是归结为肯定的可以说，汉译时为了保持原文的委婉语气，可译为未尝不可说、还是可以说、大致可以说。

〔という・といわれている・とのことである〕

- ①北京は中華人民共和国の首都で，世界中から訪問客が絶えないという。

〔北京是中华人民共和国的首都，据说从全世界前来访问的客人络绎不绝。〕

- ①日本の相撲は，その発祥の地は中国であろうと言われている。

〔日本の相撲，据说它的发源地多半是中国。〕

- ③これはまだ一般に公開されていないとのことである。

〔这个，听说还没有向一般人公开。〕

以上各例是表示传闻的附加成分。という、といわれている、とのことである这三个附加成分意思并无多大区别，基本可以互相换置。从句法的角度看，它们在句中的职能，与词法中的传闻助动词“そうだ”并无不同。由于它的含义及译语均较简单，同样用例，不再多举。

〔と思われる・と見える〕

- ①日本の教育方針を再検討する時期が来ていると思われる。

〔看来，重新研究日本教育方针的时机已经到来。〕

- ②水中に一匹の魚でもいれば，それは彼の目を逃れることはで

きないであろうと思われた。

〔那怕水里有一尾魚，那似乎也逃不过他的眼睛。〕

- ③ こういう事実は、充分注目されていいのではないかと
思われる。

〔这样的事实，看来恐怕值得充分注意的吧。〕

- ④ 一度君のように引越す癖がつくと、何度でも引越したくなる
ものと見える。

〔看起来，一旦象你这样养成爱搬家的毛病，那就会总想搬
家喽。〕

- ⑤ それじゃ、どうぞお遊びに出てくださいまし。毎日行ったり
来たりしていた方が急にお出でなくなると、俺も淋し
くて仕方がないと見えましてね。

〔那么，就请您来玩吧。过去每天经常来往的人突然不来了，
我儿子似乎也寂寞得不得了哪。〕

以上五例中的と思われる、と見える，虽然这两个附加成分中的动词思
われる、見えるの原来词义是不同的（思われる着重于从思维的自然活
动的结果得出的推论，見える着重于从外部接受刺激的结果得出的推
论），但在这里，形成为と思われる、と見える两个附加成分之后，它们
的作用大致相同，都是表示揣测的语气，有时这两者互相换置，也可
以同样负起这种揣测语气的作用。在汉译时，这两者都可译为看来、
似乎。

（八）用という引出的谓語附加成分

有一组谓語附加成分，它的特点是用という引出下边的词语，而
下边的词语均为形式名词，如の、こと、ところ、わけ之类。这类附加成
分的いう并无一般动词言う（说）的意思，而只不过是起着一种指示的
作用。由于这类附加成分，与以形式名词为主的、直接接于谓語之下的
附加成分在意义上大多近似，这里只举出若干用例，而不再作细目分
类。读者遇到这类附加成分，可参看前边“以形式名词为中心组成的谓

语附加成分”(本书第二册第五十一页)。

- ①まさか俺が話を^{おれ はなし}してはいけないというのではあるまい。

〔总不至于不准我说话吧。〕

- ②いまの幸福な生活は、昔の苦しい時代と比較すれば、まさに天と地の相違(である)ということになる。

〔现在的幸福生活，如果和过去的痛苦时期相比，那简直是天地之差。〕

- ③希望がすっかり破れてしまったというわけだ。

〔就是说，希望整个破灭了。〕

- ④計画はもう決まったというわけではない。

〔并不是说计划已经决定了。〕

- ⑤七星岩は、その名の如く地上から切り立っている七つの巨大な岩で、適当に樹も生い茂り、自然という巨人の手になった盆景というところだ。

〔七星岩，正如它的名字所示，是从地表上耸起的七块巨大的岩石，长有一些树木，恰似由大自然这个巨人之手制作出来的盆景。〕

- ⑥りっぱな時計を手にはめないでポケットに入れるという法はないよ。

〔总不该把一只手表不戴在手上放在衣袋里呀。〕

- ⑦いくら南方を空けても、北方が塞がっているのでは、風は思うように通らない。ここに少くとも、家の南北に空地を残しておく必要があるのだ。これが家の四方に空いた地面があったらば、最もよいと所以だ。

〔不管怎样把南面空出来，但若是北面没有空出来，那么还是不能很好地通风。因此，至少应在房子的南北两面留有空地。这就是为什么如果在房子的四周都有空地，那最好不过的道理。〕

- ⑧この発言は、今にして思えば、まことに意味深長なものであったと外はない。

〔这个发言,现在想起来,只能说是非常意味深长的。〕

以上例①至例⑧各黑体部分,都是用という引出的谓语附加成分。由于と和という都有指示作用,因此,这种附加成分就不只修饰、限定谓语中心词,而是修饰、限定包括谓语中心词在内的整个句子的陈述作用,这也就是为什么在汉译时经常要把这类附加成分译成副词性的短语放在句首的缘故。上述各例附加成分的译语中有些译为**就是说、并不是说、只能说**中的“说”,这个“说”与主语并无直接关系,只是一种判断的语气。读者可致细体会之。

〔结束语〕

以上,按照谓语附加成分与谓语中心词的连结形式进行了分类,共举出八个大项。当然这样分类有它方便的一面:便于帮助学习者对它识别和记忆;但也有它的不足之处,即可能漏掉了一些不宜于归入这八类的附加成分。为了尽早结束本文,这里就不再求全责备,阙漏之处,当俟异日加以增补。

日语的谓语附加成分是个既复杂又细微的问题,阐明它的全貌,不是一朝一夕可以毕其功的。举一例来说,一个句子并不限于只有一个谓语附加成分,这里没有正面接触到这个问题。又如关于如何分类,也可按这些附加成分的职能,如**判断、让步、容许**……等等来进行分类。总之,本文只是给学习者提供一个识别谓语附加成分的线索,联系汉译,帮助读者对日语结构的特点多少有所了解而已。

关于汉译的问题,笔者要说明的是,尽管在本文中,同一附加成分,通过较多的用例,力求提示出尽可能多的不同译法,但这些用例毕竟都是些孤立的、零散的句子,如果把这些用例放在更大的视野之中,放进整段或整篇文章之中,那么相信还会发掘出更多的译法。特别是文学作品的翻译,如何处理好这些谓语附加成分应该有更高的要求。因此笔者希望于读者的是,不要把这些译语看死来框住自己。问题在于对这些附加成分的原文的深入理解及对通篇文字的整体理解,最恰当的译语只能在具体的语言环境当中产生出来。

(下转 29 页)

形容词ない和助动词 ない的区别

茹顺正 王铁桥

日语中表示否定的ない有两个:一个是形容词ない,一个是否定助动词ない。由于其词形和意义相同,往往在教学中容易忽视其不同之处,造成学生概念模糊,运用错误。我们认为,在日语教学中,应对两种ない的区别予以适当的重视。现将两种ない的不同点区别如下:

一、词类的概念不同

一个是形容词,属于独立词,可以单独使用,而且有时用汉字“無い”书写。如:

△あの本はさがしたけれども、どこにもない。/那本书(我)找过了,可是哪儿也没有。

△「紙があるか。」「ない。」/“有纸吗?”“没有。”

△わたしも行って見たいけれども、暇が無いんです。/我也想去看看,可是没有时间。

△空気と水、この二つは、一日も無くてはならないものである。/空气和水,这两样是一天也不能少的。

一个是助动词,属于附属词,不能单独使用,而且也不能用汉字书写。如:

△もう時間ですが、彼はまだ来ない。/已经到时间了,他还没来。

△霧が濃くて何も見えない。/由于雾大,什么也看不见。

△難しくくて少しもわからない。/由于难,一点也不懂。

二、所接词类及其活用形不同

形容词ない是接在形容词和形容词型助动词、形容动词和形容词型助动词及指定助动词だ的连用形后面。如:

△あの山はそう高くない。/那座山不那么高。

△なにも食べたくない。/什么也不想吃。

△あそこには誰も居るらしくない。/那里好像没有人。

△栗の花はあまりきれいでない。/栗子花不怎么好看。

△それは偽作のようではないね。/那个不像是假的呀!

△「かれはそんなんでない」と確信する。/我敢肯定,“他不是那种人。”

助动词ない则是接在动词及动词型助动词たがる、れる、られる、せる、させる等的未然形后面。如:

△流れる水はくさらない。/流水不腐。

△知らなくても、知らないと言わない。/尽管不知道,却不说不知道。

△出発から到着までの十日間は新聞も見られなかった。/从出发到抵达,这十天里连报纸也没看上。

△日本語学校では、学生に英語を使わせない。/日语学校不让学生使用英语。

△あそこには、誰も行きたがらない。/那个地方没有人想去。

三、在句子中使用的方法不同

1. 形容词ない与它连接的词的中间可以插入助词は、も、など、こそ等,使句子增加一定的含意。如:

△この小説はそんなに面白くはなかった。/这本小说并不那么有意思。

△あの日本語の本はわたしのではない。/那本日语书不是